

令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果のお知らせ — 六小の児童の「今」と「これから」 —

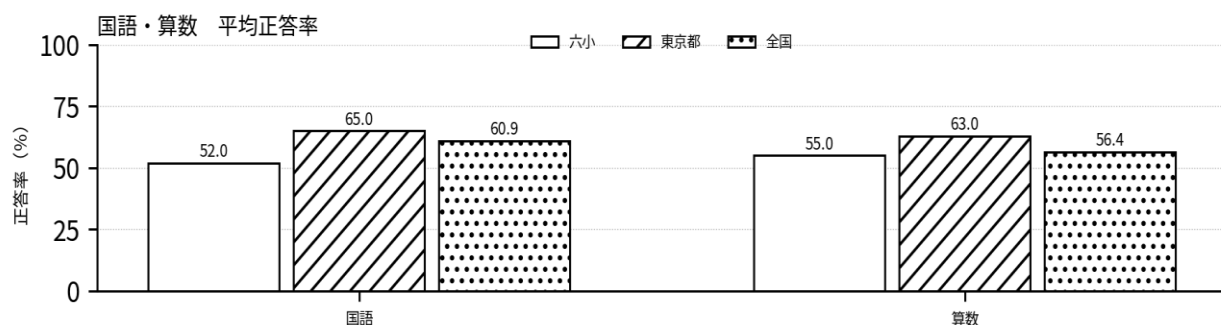
保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、6年生を対象に、国語・算数の学力や学習状況を把握し、児童の学習改善や学校の授業改善につなげるための調査です。今年度は、4月23日(木)に実施しました。

今回の結果は、子供たち一人一人の可能性を「できた・できなかった」だけで決めるものではありません。

本校では、平均正答率を一つの手掛かりとして、①教科全体、②領域、③具体的な設問の順に分析し、「できていること」を土台に「これから伸ばしたい力」と具体的な対策を考えました結果だけでなく、今後の授業・宿題・ICT・家庭との連携までお伝えします。

1 全体 六小の子供たちの学力の「今」



教科	六小	東京都	全国	全国との差
国語	52.0%	65.0%	60.9%	-8.9pt
算数	55.0%	63.0%	56.4%	-1.4pt

【全体から分かること】

国語は52.0%で全国60.9%を8.9ポイント下回りましたが、「文章の工夫を説明する」など全国を上回る設問もあります。算数は55.0%で全国56.4%に近く、「図形」「変化と関係」など全国を上回る領域もあります。

大切なのは平均値の高低だけではなく、「どこで力を発揮し、どこでつまづいたか」を具体的に捉えることです。

できていること

国語

文章の特徴や工夫を捉える力に成果。

算数

図形や数量関係を捉える問題で全国を上回る項目。

これから伸ばしたいこと

国語

複数の情報を整理・関連付け、根拠をもって説明する力。

算数

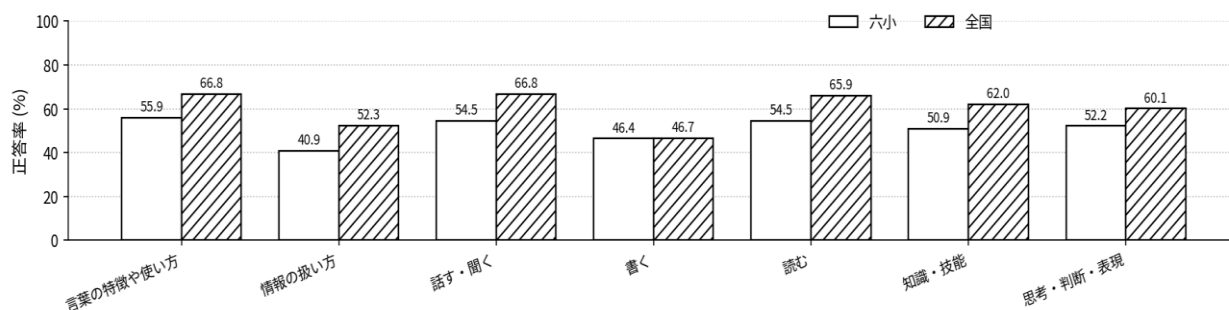
表・データの条件を整理し、図・式・言葉をつないで説明する力。

2 国語 できていることと、これから伸ばしたい力

一言でいうと

文章を読む力を、「情報をつないで、根拠をもって説明する力」へ伸ばします。

国語 領域別結果



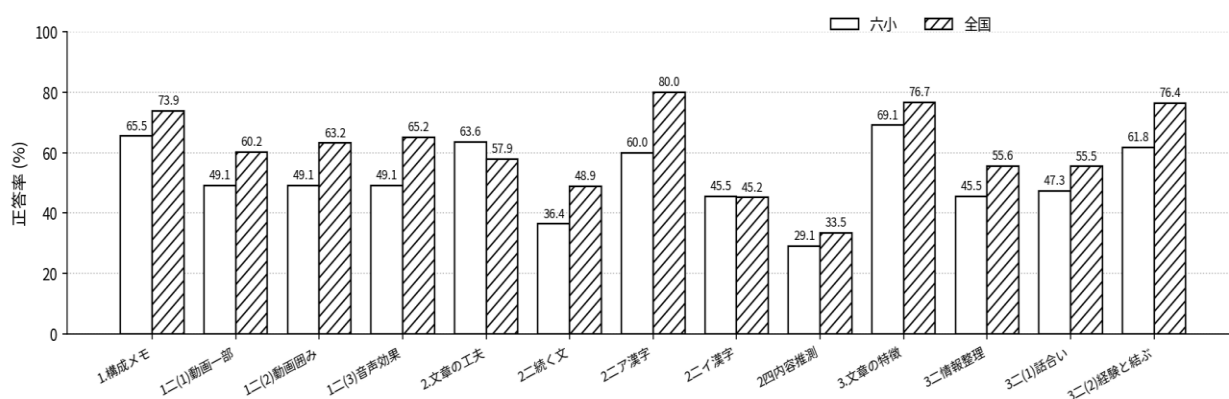
【領域から分かること】

「書くこと」は 46.4% で全国 46.7% とほぼ同水準でした。

一方「情報の扱い方」40.9%、「話す・聞く」54.5%、「読む」54.5% では全国との差が見られます。

単に書く量を増やすのではなく、文章・資料から必要な情報を見付け、複数の情報を整理・関連付け、根拠を選び、自分の考えにまとめる一連の学習過程を丁寧に指導していきます。

国語 設問別結果 (全13設問)



成果として捉えること

- ・2「文章の工夫」63.6%。
全国 57.9% を 5.7pt 上回る。
- ・3「文章の特徴」69.1%。
文章の特徴を捉える基礎が見られる。

重点的に伸ばすこと

- ・2 四「内容推測」29.1%。
複数情報を手掛かりに考える。
- ・1 二(3)「音声効果」49.1%。
工夫と効果を結び付ける。
- ・3 二(2)「経験と結ぶ」61.8%。
文章と経験を関連付けてまとめる。

ここから分かること／これからの国語授業

設問全体を見ると、記述式だけが課題なのではなく、選択式・短答式も含めて「読む→情報を整理する→根拠を選ぶ→考えを形成する→説明する」という、思考過程を育てる必要があります。

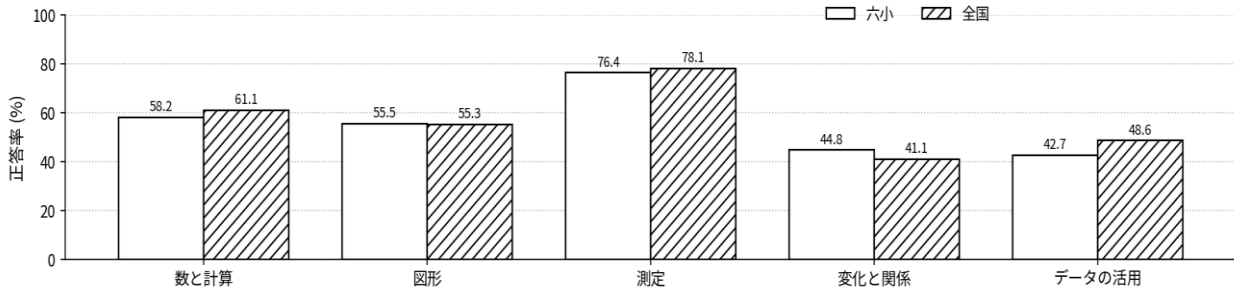
授業では、①根拠となる言葉に線を引く、②二つ以上の情報を表や矢印でつなぐ、③ペアで短く説明してから書く、④授業の終末に 30～60 字程度の根拠付き一文を書く、という活動を短時間・高頻度で積み重ねます。漢字も反復だけでなく、熟語や短文など文脈の中で「適切に使う」学習につなげていきます。

3 算数 できていることと、これから伸ばしたい力

一言でいうと

答えを出す力を、「図・表・式をつないで、理由を説明する力」へ伸ばします。

算数 領域別結果



【領域から分かること】

「図形」55.5%は全国 55.3%、「変化と関係」44.8%は全国 41.1%を上回りました。

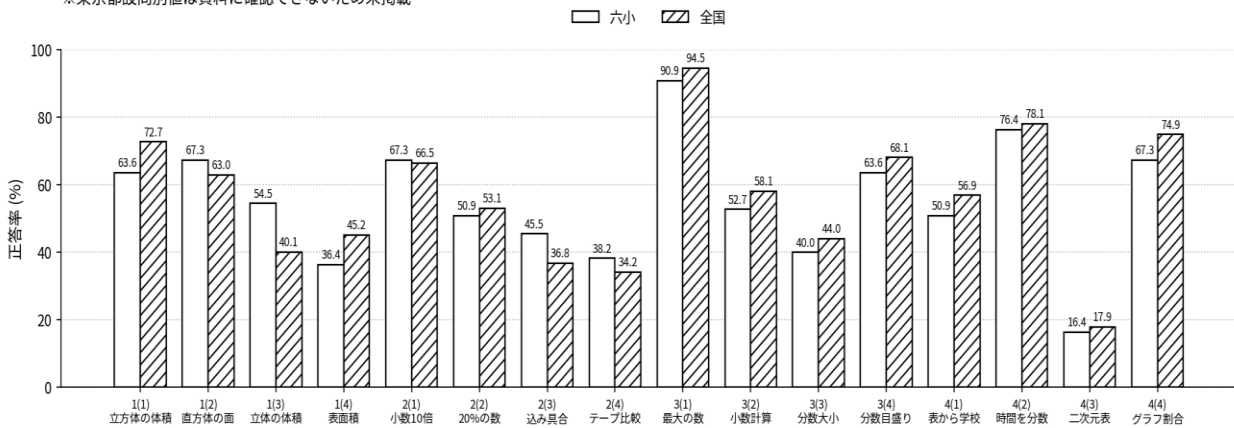
「測定」76.4%も全国 78.1%との差が小さい領域です。

一方、「データの活用」は 42.7%で全国 48.6%を下回りました。

表やグラフをただ見るのではなく、条件を一つずつ整理し、必要な情報を選び、判断の理由を説明する学習が必要です。

算数 設問別結果（全16設問）

※東京都設問別値は資料に確認できないため未掲載



成果として捉えること

- ・1(3)「立体の体積」54.5%(全国 40.1%)。
 - ・2(3)「込み具合」45.5%(全国 36.8%)。
- 数量関係を捉えて考える力が発揮されている。

重点的に伸ばすこと

- ・1(1)「立方体の体積」63.6%(全国 72.7%)。
- 図・操作・式の意味を結び付ける。
- ・4(3)「二次元表」16.4%(全国 17.9%)。
- 複数条件を整理して必要な数を選ぶ。

ここから分かること／これからの算数授業

算数では、正解だけで終わらず「なぜこの式になるのか」「どの数・条件に注目したのか」を言葉にすることを大切にします。①問題文の条件に印を付ける、②図・表・数直線に表す、③式と図を対応させる、④友達の考えと比較する、⑤理由を一文で説明する、という流れを繰り返します。特に表・データの問題では「どの条件→表のどこ→どの数」と読み取る手順を可視化し、条件を整理する力を育てます。

4 これからの六小 学校と家庭で一緒に育てる力

分析から見た学校全体の重点

国語・算数に共通して大切なのは、答えだけではなく「必要な情報を見付ける→情報をつなぐ→考える→根拠をもって伝える」力です。できている力を土台に、日々の授業・宿題・ICT・個別支援をつなげていきます。

学校の授業で取り組むこと

学びの段階	授業で行うこと	ノート・ICTに残すこと
① 探す	本文・資料・図・表から必要な情報・根拠を見付ける	線・付箋・メモ
② つなぐ	比較・分類・因果・共通点などで関係付ける	表・図・矢印
③ 考える	整理した情報から「何が言えるか」を考える	自分の考えを一文に
④ 伝える	根拠を入れて話す・書く・発表する	根拠付きまとめ・振り返り

これまでの宿題を生かしながら、学び方を工夫します

学習	これまでのよさ	これから大切にすること
漢字ドリル・ノート	繰り返し書いて定着	熟語・短文で使う／間違いの原因を確かめて直す／「正しく書く」から「適切に使う」へ。
算数ドリル・ノート	基礎・計算の反復	途中の式や考えを残す／図に表す／間違いの理由を振り返る。
自習勉強ノート	自分で課題を選ぶ	「調べる・比べる・試す・説明する」など、目的をもって学ぶ。

紙・ノートと ICT(Qubena 等)を、それぞれのよさで使い分けます

タブレットの中にある学習アプリ「Qubena(キュービナ)」は、教師が学習状況を確認しながら、一人一人の理解度に応じた基礎事項の反復、つまずきの把握、復習に活用します。ICT に任せるのではなく、【紙・ノート＝考えを残す／ICT＝繰り返す・確かめる／授業＝比べる・説明する】という役割を意識します。必要に応じて、授業内の個別支援や補充的な学習機会を設け、基礎の定着と発展的な学びの両方を支えます。

ご家庭でできる「学びのひと工夫」

学校と家庭で一緒に育てたい力

特別な教材を用意していただく必要はありません。学校では「根拠をもって考え、説明する授業」を、家庭では日常の中の「どうして?」「どこから分かったの?」という会話を大切にします。

今回の結果を、子供たちの可能性を決める数字ではなく、「分かった・できた」から「なぜだろう・もっと知りたい」へ学びを広げる出発点として生かしていきます。